

## 令和5年度 見学研修会報告

今年度の見学研修会は、令和5年8月24日(木)に東京理科大学・薬学部(野田キャンパス)にて実施されました。その内容の概略を報告します。

### 1 開会式

#### ・ 部会長挨拶

成田北高等学校 校長  
藤崎 俊浩 先生

#### ・ 会場大学より

薬学部長 薬学科 教授  
宮崎 智 先生



薬学部は、東京物理学校の開学から142年の歴史の中で、理学部の次に創設され、今年で62年目を迎えています。

### 2 大学・薬学部・学科説明

薬学部長 薬学科 教授  
宮崎 智 先生

薬学部は「国民の健康を守る」という使命を担っており、「自分がつくった化合物を口にできるか」ということが常に学びの根底にあるそうです。高校までの教育で、化学は薬学にとって重要な科目ですが、人の健康を考えると意味では「生物」、また薬をつくるための化学反応の根本については「物理」の素養が必要になり、さらに「数学」がそのベースになっていると宮崎先生はおっしゃっ

ていました。

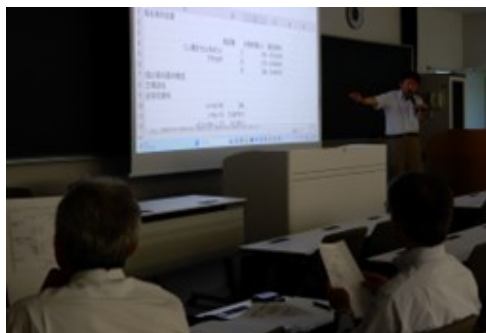
薬学科(6年制)は「(薬を使い)目の前の患者様一人ひとりを救う」、生命創薬科学科(4年制)は「(薬を創り)一つの薬で世界中の人を救う」という大志を抱かせる教育を目指しているとのことでした。

薬学科については、薬剤師になるにあたっての全国共通の基礎学力試験と実技・態度などの試験に合格することが必須であること、5年次に長期の実務実習に行くこと、6年次の卒研や薬剤師国家試験に向けての総復習など、様々なお話を伺うことができました。生命創薬科学科は、抗体医薬品や核酸医薬品、最近ではコンピューターのアプリが薬になるなど、様々なタイプの創薬に関わるために、3年次以降は選択科目が多くなるとのことでした。また、多くの学生さんが大学院に進み、研究を継続するそうです。

### 3 模擬講義

「医薬品の有効性・安全性の  
評価手法と統計学の役割」

薬学部 薬学科 准教授  
佐藤 嗣道 先生



「医薬品」とは「化学物質に情報が加わったもの」であり、その効果や副作用についての情報が豊富であることが、その価値を高めることになるそうです。

この講義では、新薬の開発における臨床試験で、その効果と安全性を評価する方法を教えてくださいました。

医薬品の有効性の評価においては、背景となる事柄が平均的に等しい2群の集団を設定して比較をすること、新薬（試験薬）の比較対象としては、「プラセボ（偽薬）」を使うことがあります。その際には、真の薬の効果を見いだすために、試験薬とプラセボを無作為に処方する（ランダム割り付け）、心理的な要因により患者さんの症状が改善したり、医師の評価に悪影響を与えたりすることを防ぐために、誰にどちらを割り付けたかを双方に知らせない（二重盲検法）などのことを行うそうです。効果を評価する指標としては、2つの群での症状の「改善の割合」、「改善の割合の差」、疾患の「発生割合」、「発生割合の差（絶対リスク減少）」とその逆数の「治療必要数」を目安の一つとするそうです。

医薬品の安全性の評価については、観察による手法が用いられることを、サリドマイドによる薬害を突き止めた「レンツ博士の症例対照研究」の事例で詳しく教えてくださいました。また「コホート研究」の手法や、最近「診療報酬を請求するための明細書（レセプト）のデータ」と「病院のデータ」などのオンラインで蓄積された大規模なデータベースを研究に活用していることなどを教えてくださいました。

また、統計的な手法が使われる授業の例として、タミフルの臨床試験のデータ（タミフル群とプラセボ群）をもとにした、母比率の差の検定について、表計算ソフトウェアを用いた演習の様子を紹介していただきました。

## 4 施設見学

薬学部 薬学科 講師  
河野 洋平 先生



河野先生は、薬学科の病院での実習に対応するための実習施設を案内していただきました。実際と同様の調剤業務の実習が一度に50名できます。まず内服薬の調剤施設を見学し、次に注射薬の調剤施設において「クリーンベンチ」と「安全キャビネット（抗がん剤の調整に用いる）」について詳しいお話を伺いました。抗がん剤は、人のDNAにダメージを与えるものが多いため、従事者を守るためにも、知識のある薬剤師がこうした設備で調整をする必要があるそうです。

また医療現場では、薬の説明や服薬指導などの対人業務が重要になるため、そのトレーニングをするための設備（病棟実習室）や保険薬局を模した施設（医療薬学資料室）、さらに講義で提示された症例について、薬の投与量や投与方法・回数などをグループに分かれて検討するための教室（プレナリーセッション室）を見学させていただきました。

## 5 閉会式

・会場大学より

薬学部長 薬学科 教授  
宮崎 智 先生

・副部長挨拶

船橋法典高等学校 校長  
田口 英彦 先生